

外 来

看護師長 町田 裕子

1 部門目標

スタッフ間の協力体制を強化し、質の高い看護の提供を行う

2 業務体制・スタッフ

外来部門は、内視鏡室、化学療法室、放射線治療、3科外来（整形外科、形成外科、脳神経外科）、中央処置室を担当し、看護を実践している。また、夜間・休日の救急外来は、ICUと協働している。

平成30年3月現在、看護職員は20名であり、その内訳は看護師長1名（兼務）、主任看護師1名、看護師18名（常勤13名、非常勤5名）である。今年度からは、時間外勤務削減を目標に遅出勤務を導入している。

3 業務実績

平成29年度の外来診療実日数は244日だった。救急車受け入れ台数は3100台、うち夜間の受け入れ台数が2107台だった。また、夜間の救急受診患者数は4730名だった。検査・治療部門では、内視鏡件数が4088件、化学療法件数が1462件、放射線治療件数が1573件だった。また、中央処置室の利用患者数は1673名だった。緩和外来受診患者数は63名、がん看護外来患者数は38名だった。

4 1年間の総括

自部署は、今年度「外来ユニットの特性を活かした協力体制を強化し、安全な看護を提供する」ことを目指し、学習風土の醸成、労務環境の整備、協力体制の強化、備品管理などの取り組みを行ってきた。結果、看護師はe-ラーニングなどを活用し、自己学習することができた。また、限られた人員のなか、マンパワーで補うのではなく、業務整理やシステムを活用するように考え方が変化している。

5 今後の目標

学習は、個々の知識にとどまっており、他者と共有し看護実践へと活かしていくことが課題である。また、今年度取り組んだ業務整理などは、今後評価・改善し、さらなる整理やシステム化をはかっていく。